

鳥取県経済同友会東部地区 7 月例会報告

- 1 日 時 令和 7 年 7 月 2 3 日 (水) 1 8 : 3 0 ~
- 2 場 所 ホテルニューオータニ鳥取「鳳凰の間」
- 3 講 演 「森林資源の利用による循環経済の実現を」
鳥取県東部森林組合
代表理事組合長 嶋 沢 和 幸 氏

4 出席者 会員 1 7 名

5 講演要旨

(1) 森林資源の現状

我が国の森林面積は、国土の 3 分の 2 にあたる約 2, 5 0 0 万 ha であり、鳥取県の森林面積は 2 6 万 ha で国土の約 1 % である。

(2) 森林・林業に対する期待の高まり

森林は、国土の保全、水源のかん養、地球温暖化の防止等の多面的機能を有しており、国民生活に様々な恩恵をもたらしている。



【講演する嶋沢和幸氏】

①地球温暖化対策

パリ協定で我が国の温室効果ガス排出削減が 2 0 1 3 年に比べて 2 0 4 0 年に 7 3 % 削減が目標となっている。そのうちの森林吸収量が 7, 2 0 0 万 CO₂ トン (同比 5. 1 %) である。

②J-クレジット制度について

J-クレジット制度は、省エネ設備、再エネの導入や森林管理等による温室効果ガスの排出削減・吸収量をクレジットとして認証する制度。

③ネット・ゼロ実現への貢献に向けた取り組み

以前はカーボンニュートラルといていたが、今は温室効果ガスを含めたものをネット・ゼロといい、2 0 5 0 年ネット・ゼロが目標。吸収源・貯蔵庫としての森林・木材。排出削減に寄与する木材・木質バイオマス。三洋製紙もバイオマス発電をしているが、木質チップ等の集まりが悪いため出力を落としている。

④花粉発生対策の着実な実施

人工杉の皆伐を行い、成長が従来の 1. 5 倍で、花粉の飛散が半分のエリートツリーを植栽している。

その他、森林資源を循環利用している林業には多くの課題が山積している。

- ・木材価格の低迷、木材需要の減少、
- ・林業従事者の減少、高齢化、
- ・林業の生産性向上
- ・森林経営の集積、集約化、課題を解決しながら、持続的な森林経営を構築する。

県産材の利用促進のため、現在、鳥取城北高校の新校舎が木造 4 階建てで建てられている

こと、森林組合の職員は全国平均より10歳若く30代であること、夏は熱中症予防のため勤務時間を前倒しし午前5時から午前12時まで働いていること、耕作放棄地にセンダンという広葉樹を植えている。センダンは成長が早くケヤキに似ていて家具材となることなど、様々なお話をされた。

参加者から、「県産材を使うよう設計しても集まらないことがある。」⇒「事前に県産材を確保しておくべき。」、「木を大きくするため肥料をやっているか。」⇒「肥料はなにもやっていない。エリートツリーは成長が早いので、通常5年必要な下草刈りが3年で終わり、労働の省力化につながっている。」などの質疑、応答が行われた。